

令和 5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000608	事業の開始年月日	平成29年11月30日
		指定年月日	令和5年12月1日
法人名	株式会社 コムロード		
事業所名	もえぎケアセンター平戸		
所在地	(〒244-0803) 神奈川県横浜市戸塚区平戸町1029-1		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和5年12月31日	評価結果 市町村受理日	令和6年3月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・食事は職員手作りの家庭料理を提供しています。 ・季節ごとのイベントには職員が仮装をしたりして楽しんで頂いています。 ・笑い声の絶えない楽しい「居住場所」を目指しています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和6年2月14日	評価機関 評価決定日	令和6年2月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇生活を実感する様々な計画と家族への情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の食への好みを把握し、全ての食材を事業所で調達し、調理し、利用者の状況に応じてミキサー、きざみ等に加工し提供している。利用者は準備、後片付けに参加し生活を実感している。ラーメンを楽しみ、たこ焼き、ゼリー作りを楽しんでいる。 ・年間のイベント(正月、節分、こどもの日、七夕、納涼祭、運動会、遠足、ハロウィン等)を企画し、節分の際には職員が鬼に扮して演出するなど、共同生活に変化を付け、楽しく過ごすように支援している。 ・毎日の体温、血圧、脈拍のデータと通常の生活の姿やイベントの様子を家族に写真とコメントを添えて、毎月「今月のお知らせ」で情報提供し、本人の生活実態を知らせている。コロナ対応で面会制限がある中で家族は本人の生活状況を知ることができ安心している。 <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇利用者に対応した入浴支援</p> <p>週2回の入浴を基本としているが、利用者の希望で、長湯、ぬるめ湯、職員との会話を楽しんでいる。季節の柚子湯、菖蒲湯を楽しんでいる。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	もえぎケアセンター平戸
ユニット名	楓

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の變動により全ての職員と完全には共有出来ていない	・基本理念を「利用者と一体感ある介護サービス」とし、「家庭的な環境、安心と尊厳のある生活支援」を事業所指針のキーワードとして、全職員がケアを実践している。 ・利用者の人としての尊厳を忘れぬように職員指導をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスが5類に移行し徐々に地域へのイベントに参加を試みている。また日常の散歩などで近隣の方達と軽い会話をしている。	・ボランティアによるギター音楽会を毎月行っており、散歩で近隣住民との挨拶や会話を継続している。 ・今後はコロナ禍以前のように、沖縄民謡ボランティア受入やバザーを通じた地域住民との交流再開を検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により出来ていなかったが今後活動していく事を計画している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面開催を行い始めた事で、より良いサービス向上に務める。	・町内会長、地域ケアプラザ職員、小規模多機能管理者をメンバーとし、年6回開催している。 ・地域行事の情報を得て地域連携を意識した運営に努め、メンバー意見を参考にしてケアサービスの質向上を目指している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市区担当との連絡は密に取れていない。	・介護保険の更新手続きや生活保護の通知・連絡等で区の担当職員と密に連携している。 ・行政情報や感染症情報をメールで得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束・虐待防止委員会の開催と職員の話し合い、ミーティング時の定期的な勉強会により防止に努めている。	・身体拘束防止委員会を2か月ごとに開催し、又、月1回のスタッフ会議で身体拘束をしないケアについて職員に注意を促している。 ・勉強会や職員への日常指導で、利用者の行動や気持ちを制しないことを基本にしている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上	・虐待防止委員会を2か月毎に開催し、月1回のスタッフ会議で虐待に相当する行動や言葉がけについて意見交換し、適切なケアに努めている。 ・職員の不適切な言動を見たら管理者はその場で注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は成年後見制度について学び、理解を深めるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約は問題なく出来ている。家族からの問い合わせには分かり易くお答えする事を心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から運営に関する意見はない。	・家族の面会時(玄関)時に要望を聞き、毎月の「今月のお知らせ」で利用者の様子を家族に報告し、意見や要望を電話で把握している。 ・家族の要望としては利用者本人の安泰な生活を望んでおり、その気持ちをケアの基本においている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2度の代表者、管理者会議により意見、要望を伝えている。	・管理者は、日常の会話や引継ぎ、月1回のスタッフ会議等を通じて職員の意見を把握している。 ・風呂場の改装や道具に関する要望があり、可能な件は実現に向けて実行している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告のより認知してもらっている。職場環境に於いても意見が言いやすい状況にするよう努めている。	・就業規則により、勤続年数、資格等を考慮した給与体系があり、介護職員の処遇改善加算、ベースアップ、賞与のシステムがある。 ・外部研修への参加の機会を設けて、向上心を持って働くことを奨励している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部より講師を招き勉強会が行えている。ユニット内での勉強会に於いてスタッフの知識向上に繋げている。	・管理者は職員に初任者研修、実務者研修等の外部研修を通じて、各種の資格を取得するように努めている。 ・看取りケア(ACP=Advance Care Plan)、口腔ケア、ハラスメント対策とコミュニケーション等の研修を講師を招いて行っている。	重要な項目について内部研修の年間計画を作成し、職員に意識付けを図ると共に実効を上げることが期待されます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ規制は緩和されているが感染には十分な配慮をし学習会を行う環境を整えている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居からの一定期間は、日々の様子を観察しご本人の不安や要望を良くお聞きし信頼関係を築きながら安心して頂ける環境作りに努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族から入居されるご本人の思い、不安に感じているであろうことを詳細に耳を傾け安心してお任せ頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の面談にて、入居に繋がった困りごと、入居してからの心配、不安面をお聞きし必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意思に任せ簡単な家事作業を共有している。職員に於いても利用者との会話の中から学び得ることもあり、日々の会話を大切に、職員同士で共有している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況について家族との連絡を取っている。家族の要望も取り入れたケアを提供していくよう取り組んでいる。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により電話のみの対応となっていたが、今後は以前のように面会や地域への行事に参加希望のある利用者について支援をしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以前は知人が良く訪問していた。現在は友人、知人の面会を制限しているが、電話や手紙について仲介支援をしている。 ・馴染みの場所に行ってみたいとの希望はないが、家族支援で訪れる機会を大切にしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格を把握し、利用者同士が良好な関係を築けるようにフロアの席の配置に気を付けている。またレクリエーションには共同参加が行えるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談や支援が可能であることを伝え、定期的にフォローしていく。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	散歩時、入居者と1対1になる状況での会話で要望などを聞き取り職員間で共有している。	・日常の会話をできるだけ多くし、表情・言動も含めて、利用者の思いや意向の把握に努めている。 ・表出が困難な利用者には、問いかけを単純化して問いかけ、それに対する反応で思いや希望を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に聞いたこれまでの生活歴や環境について把握する事に努めている。入居前まで利用していたサービスについてもケアマネジャーから利用経過を申し送ってもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活パターン、心身、身体状況に於いて職員各々が観察、アセスメントを行い共有するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との会話、家族からの要望に職員間で共有し気付き、提案を話し合いケアプランに取り入れている。	・可能な職員が参加して毎月ケアカンファレンスを開催し、医師、家族、医師の意見を参考にして介護計画についてモニタリングし、見直している。 ・ケア項目は12か月を基本とし、内容により6か月目標も設定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には些細なことも記録に残す。職員ノートには出勤したら目を通してミーティングで検討し介護計画に反映させられるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活環境を整え行事やレクリエーションの起案を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者個々が得意な事をしていただけるような機会を設けている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者前までの主治医を継続させるか、訪問診療医に変えるかの選択して頂いている。前主治医との連携を取るよう努めている。	・月2回の協力医と2か月ごとの歯科医が訪問診療を行っている。歯科衛生士も同行し、口腔ケアを行っている。6月に法人による口腔ケア研修があった。 ・これまでのかかりつけ医を受診する際は家族が同行し、支援を図っている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時の連絡体制を整えている。24時間指示、支援を受けられるようにしている。訪問の際にはそれぞれの身体状態を報告し健康相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病巣看護師、協力医療機関との連携を図り適切な治療を受けることができ継続的に病状を把握対応できるようになっている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族に説明を行っている。重篤時には主治医、家族共に連絡を取り可能な限りの支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に「重度化対応に関する指針」を本人と家族に説明し、同意を得ている。 ・昨年の看取りの際は、主治医、看護師、家族が最適な対応を話し合い、実行した。 ・ターミナルに関する研修を行った。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	他スタッフとの連携ができ緊急時の対応の仕方について周知している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度の避難訓練を行っている。災害に備えて備蓄品を揃え定期的に点検を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間2回の避難訓練は、夜間訓練を含めて1階の小規模多機能型居宅事業所と合同で行っている。 ・災害に備え飲料水や食料品を保管している。今後は、ウォーターサーバー(保存器)で1日1人3リットルを供給できるよう検討している。 	緊急時に慌てずに対応できるように、品目、個数、賞味期限を記入した備蓄品リストを作成し、保管場所にも掲示することを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、声掛けは日々注意している。個々の人格を尊重した声掛けに努めている。ご自身で出来ることはして頂き尊厳を守るように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりへの言葉づかいや声かけの際は大声やあだ名を使わないことを徹底し、利用者の人格を尊重している。 トイレ誘導の際は誇りやプライバシーを損ねないように努めている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望に添えるような支援を行うよう努めている。食事や入浴時間等ご本人のペースでできるように雰囲気作りにも気を配っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員優先のケアはしないように気を付けている。就寝時間もそれぞれ入居者のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身でご希望の服装を選んでいただいている。定期で訪問理美容を利用している。またご家族が外部のヘアサロンご希望の場合はご家族付き添いで利用されている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の際の下ごしらえまたは盛り付けなどをして頂いている。食後には入居者が率先して食器洗いをして下さっている。	<ul style="list-style-type: none"> メニューの作成、食材の選択や買い出しから調理まで職員が行い、利用者の好みを取り入れ喜ばれている。 利用者は、料理の下ごしらえ、盛り付け、配膳や食器洗い、片付けに参加し、食事が楽しみとなるように支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限の必要な方、塩分制限にも気を付けている。それぞれに応じた食事内容で対応できるような食事づくりを工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。職員による最終チェックをしており磨き残しにも気を付けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時での声掛け誘導により排泄の失敗は軽減している。 夜間はポータブルトイレの利用により自身での排泄がスムーズに行えている。	・日中の排泄支援は、利用者の排泄パターンをタブレット端末機で整理し、声かけ誘導を図り、自立に向けた支援をしている。 ・夜間はポータブルトイレを利用する利用者もいるが睡眠を優先し、スムーズな排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分補給に気を付けている。 困難な便秘の方には医師に相談し服薬による調整を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否がある方には時間や日をずらし対応している。長湯を好む方にはその日の体調、血圧を確認し職員付き添いの基ぬるめの湯で入浴して頂いている。	・入浴は、週2回の午前を原則として、利用者の希望による入浴を楽しんでいる。 ・長い入浴、ぬるめの湯、職員との会話など、それぞれの楽しみを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に居室で休みたい入居者には夜間の就寝が妨げない程度に昼寝をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診による薬の変更にも薬情書を職員全員が確認し理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を反映するのは難しいが一人一人の嗜好、娯楽を見つけられるように努めている。またレクリエーションや散歩等で気分転換を図る支援を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望をされる入居者は少ない。職員が声掛けをし近隣への散歩などの支援を行っている。	・遠出や外出を希望する利用者は少ないが、外気浴、菜園、花壇の手入れで気分転換を図っている。 ・10月秋の遠足には職員とともに10人で、子供自然公園に行き楽しんでいる。近くのコンビニの買い物に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭は所持していない。以前は希望される利用者に行き買い物をしていた。現在希望される入居者は見られない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話には出てお話しして頂いている。その際職員は離れている。文字を書くことが困難な方にはお名前のみ自筆で記載していただいている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自立できている方は各所の配置を理解できている。毎月のカレンダーや季節に沿った飾り付けにより居心地の良い空間を演出するよう配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> 職員によるリビング、トイレ、廊下など定期的な清掃と手すり等の消毒を行っている。換気は冬場でも毎日行い、温度管理は24～26°にて調整している。 職員手作りの季節の飾り付けを行い、居心地よく暮らせるよう努めている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが共用の場で過ごすことができている。気の合う方同士での会話やテレビを真剣に視聴される方、また職員との会話を楽しまれる方など自由にいられる空間を作るよう心掛けている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ってこられた家具や思い出の品々を今でも大切にされている。	<ul style="list-style-type: none"> 居室は、エアコン、カーテン、照明、クローゼットを備えている。利用者は仏壇、写真、手作品等を持ち込み、居心地よい居室としている。 季節の衣替えができない利用者には職員が支援している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手摺を配置し夜間でも安心して歩行出来る程度の明かりを調整している。		

目標達成計画

事業所名 もえぎケアセンター平戸

作成日 令和5 年12 月31 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員を育てる仕組み	研修に於ける職員への意識向上、実施することによってのスキルアップを目指す。	内部研修の年間計画作成	1ヶ月
2	35	災害対策	入居者、職員を守るための対策を講じる	備蓄品等の表を作成し、目の付く箇所に掲示する。	3か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。